

公立世羅中央病院だより

No.63

救急外来受診の手引き(16)

— 腹部手術既往のある患者さん編 —

公立世羅中央病院 外科部長 長嶺 一郎

今回は開腹手術（胃、大腸、胆嚢、虫垂など）の既往のある患者さんの腹痛の原因としてよくみられる腸閉塞について説明します。

腹部の手術後の患者さんは多かれ少なかれ腸が周りの臓器と癒着して、局所的に流れが悪くなっており、消化の悪い食物を一度にたくさん摂ると腸管が詰まってしまうことがあります。さらに癒着そのものによる腸管の捻じれや、癒着が原因の索状物に腸管が絡まったりして起こる腸閉塞もあります。また、がんの手術後であればがんの転移再発による腸閉塞もあります。

1. 症状

お腹を刺すような鋭い痛みが突然に起こり、周期的に強くなります。しばらくするとお腹が膨らんできてガスが出なくなり、吐き気と嘔吐が始まります。腹痛が持続性で体動かすと激しく痛むときには、腸管が壊死を起こす絞扼性腸閉塞となっている場合もあります。

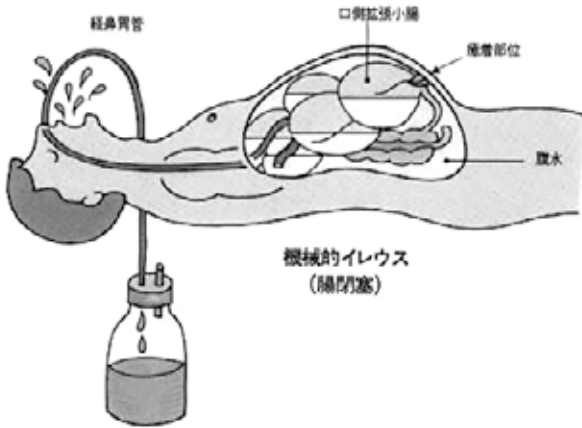
2. 検査

腹部単純×線写真、腹部CT造影検査、血液検査などを行い、腹部所見と合わせて総合判断して診断します。

3. 治療

絶飲食とし、脱水改善、電解質補正のための輸液を行います。腸内細菌の増殖、毒素産生に対し抗生物質

の点滴投与を行います。また、膨らんだ腸管を元に戻して、早く腸閉塞状態を改善するために、細くて柔らかいチューブを鼻から挿入して、ガスや腸液を吸引することもあります。腸管の壊死を伴わない単純性の腸閉塞であれば、ほとんどの場合、点滴と絶食で自然に治ります。どうしても治らない場合は手術が必要になります。腸管の壊死を伴う場合に



は、命に関わりますので緊急手術が必要です。

4. 腸閉塞の予防、注意点

腸閉塞には多様な原因があるため一般的な予防法はありませんが、腹部の手術を受けた事のある人は、消化のよい食事を摂る、便通の調整をするようにしましょう。起こる時期は、術後数週間、数ヶ月、数年と一定していません。急速に重症化する腸閉塞もあるため、排便排ガスの停止を伴う腹部膨満や腹痛、嘔吐があるときは、我慢せずに早めの受診をお勧めします。